

第112回JA宮崎経済連和牛枝肉共進会を開催

The Champion Brand 2009

～黄金の風格 宮崎牛 さらなる飛躍、そして世界へ！～



JA宮崎経済連和牛枝肉共進会を平成21年2月24日（火）、(株)ミヤチク高崎工場で開催しました。

共進会には県内より選抜された113頭が出品され、JAはまゆうの(有)谷口畜産（代表取締役：谷口直美さん、場長：箕輪康宏さん）がグランドチャンピオンに輝きその後のセリで1キロ当たり6,030円（319万4千円）と高値取引されました。また、2席に現場検定改良センター（同JA）が入賞され、JAはまゆうが上位を占め、団体賞にも輝きました。谷口畜産は第110回共進会でもチャンピオンを獲得しており本共進会での快挙となりました。

今回と前回（平成20年6月）の平均を比較すると、現状の枝肉相場にして平均枝肉単価・平均販売額と併せ肉重量、ロース芯面積、BMS Noなどのほとんどの項目において上回りました。肉質等級についてもA5が57頭（50.4%）、A4が35頭（30.9%）と前回の上物率80.5%と比較して92.0%と11.5ポイント上回る結果になりました。

総体としましては黄金の風格にふさわしく入賞牛すべてがBMS No.10以上で、うち3頭はBMS No.12となる等、素晴らしい成績となっており、今後のさらなる飛躍に期待できる結果となりました。

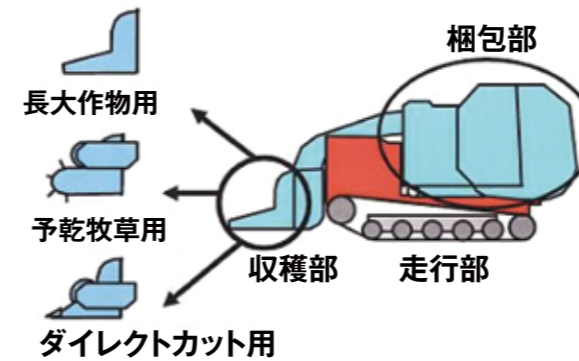


JA宮崎経済連和牛枝肉共進会（112回）

入賞	農協名	出荷者名	性別	血統			生体体重(kg)	DG	枝肉重量(kg)	枝肉歩留(%)	歩留等級				BMS (No.)	等級	単価(円/kg)
				父	母の父	母の祖父					ロース芯(cm ²)	バラ厚(cm)	皮下脂肪(cm)	推定歩留(%)			
G.C	はまゆう	谷口畜産	去	秀菊安	福之国	幸春	788	0.73	529.7	67.2	82	9.7	2.8	77.5	12	A5	6,030
2席	はまゆう	現場検定改良センター	去	秀菊安	福桜	上福	820	0.78	547.1	66.7	87	10.0	2.4	78.4	12	A5	4,510
3席	都城	薬師和敏	去	福之国	福桜	安平	800	0.73	540.3	67.5	74	8.9	2.7	75.8	12	A5	4,010
4席	児湯	田中俊勝	去	福之国	美津福	隆美	742	0.73	499.6	67.3	91	9.7	2.2	79.5	11	A5	3,710
5席	はまゆう	古澤良広	去	福之国	安平	福桜	760	0.73	501.5	66.0	83	9.8	3.3	77.4	11	A5	3,520
6席	こばやし	柏原博文	去	梅福6	糸北国	安平	708	0.76	467.1	66.0	75	9.0	2.7	76.8	11	A5	3,210
7席	延岡	星川嘉宏	去	福之国	安平	隆桜	734	0.66	499.6	68.1	73	9.5	2.0	77.2	10	A5	3,030
出品牛113頭平均							743	0.74	489.6	65.8	66.8	8.9	3.0	75.3	7.9		2,389
111回（平成20年6月開催）平均							755	0.74	482.7	64.7	63.9	8.0	2.9	73.8	6.2		2,525

汎用型飼料収穫機を活用し 自給飼料生産拡大を目指しましょう！

畜産試験場 酪農飼料部 須崎 哲也（現 営農支援課広域指導担当）



汎用型飼料収穫機

サイズ(概算):重量5t 長さ5m 幅1.8m 高さ2m



長大作物



牧草



飼料イネ

昨今の配合飼料価格の高騰や価格変動は、飼料の多くを海外に依存している我が国畜産において、輸入飼料の価格に影響を受けない、自給飼料の重要性を見直す大きな転換点になったのではないのでしょうか。

飼料増産に向けた様々な取り組みはこれまでも展開されており、その中でも担い手対策や良質な粗飼料の確保という点からコントラクター（飼料生産の受託組織）が大きな注目を浴びています。今回紹介する汎用型飼料収穫機は（独）生研センターが中心となり、タカキタ、ヤンマー、家畜改良センター、さらには本県を含めた11県で、都府県のコントラクターに向けて開発した機械です。

汎用型飼料収穫機の特徴を以下に述べます。①1台で多様な草種の収穫が可能：従来の収穫体系では草種毎に専用機が必要であり、飼料生産に取り組むコントラクターにとって経営的に大きな負担となっていました。汎用型飼料収穫機はその名前の通り、1台で刈穫部を換えることにより牧草、飼料イネ、長大作物の収穫・調製が可能で優れたものです。②高い走行性、高い収穫・調製能力：走行部はクローラー式のため、その場旋回が出来、軟弱圃場や水田でも作業が可能になります。収穫・調製スピードはトウモロコシで約40分/10aとなっています。③飼料作物の収穫、サイレージ調製の労働力軽減：汎用型飼料収穫機1台とラッピングマシン1台、計2名で収穫からサイレージ調製まで可能となります。トウモロコシの収穫、サイレージ調製作業は通常、5～6人の人手を必要とし、特に夏場のサイロ詰は大変な重労働でありこの重労働からも開放されます。④調製ロスが少ない高品質サイレージ：牧草や飼料イネは3cm程度、長大作物は1cm程度に細断し、ロールで高密度に成型、その場でラップするので気密性が高く、嫌気発酵が進み高品質なサイレージの生産ができます。1年以上経過してもサイレージの品質を示すVスコアは90以上を確保し、嗜好性も非常に高いサイレージが調製できます。

昨年の夏、新富町の（有）アグテックに協力していただき、現地での実証試験を行い、実際に機械を導入した場合のコスト試算を行いました。その結果トウモロコシ20haの2期作を行った場合、運用コストは10aあたり17千円であり、栽培費まで入れたサイレージ乾物1kgの価格は39円で、生産費調査の60円より安い結果となり、輸入飼料に十分対応できる価格と考えます。

皆さんも、コントラクターを組織して、輸入飼料価格に左右されない、安全・安心な自給飼料生産に取り組んでみませんか。